

2023年6月30日（金）

老球の細道738号

## 6月の言葉

爺様は教養（今日用事がある）と教育（今日行く所がある）が大切であると、あちこちのあいさつで話して来た。今月はまさにその通りになった。大学の授業、バスケットの大会、クリニック、ランチミーティング（バスケット勉強会）、そして病院。何かしら毎日イベントがあり、ジャージを着て荒野に向かった。山に芝刈りばかりでは引きこもってしまう。

### 1・テレビから

◆「ハングリーであれ（Stay hungry）、愚かであれ（Stay fool）」〈NHKBS「映像の世紀パタフライエフェクト『世界を変えた愚か者』〉：アップルの創始者スティーブ・ジョブズの言葉である。彼が亡くなった時坂下高校に勤務していたが、とても感銘を受け、色々なところでこの言葉を使わせてもらった。凡人にとって最高の武器は愚直であること。

◆「戦というのは戦う前に決している」「負くるを知らざれば 害その身に至る。及ばざるは 過ぎたるより勝れり」〈BS11「偉人敗北からの教訓」〉：徳川家康が生涯で最大の危機に陥った武田信玄との三方ヶ原の戦い。その戦で敗北を喫した時の言葉。敗北から多くの教訓を得て、戦いまで綿密な準備をすることを学んだ。家康は信玄を生涯の師と仰いだという。

### 2・読書から

◆「相手の肝など推測してゆくと、いつかそれにまきこまれて、わが身の都合を忘れていく」〈山岡荘八著『徳川家康8』講談社〉：バスケットの試合も同じである。大切なことは自分たちのバスケットボールをやり切ること。試合は個性と個性との勝負である。

◆「われわれ老人は生き、日を送り、可能な物事を行う。そして終わりについては多くを語らぬものだ」〈重田英世著『人類の知的遺産・ヤスパース』講談社〉：ヤスパースにおいて生きることとは即哲学をすること。「私は仕事をする。私はそれ以外に何事も行わない」という。私もかくありなん。日々、一瞬一瞬を大切に生きる華麗（加齢）なる挑戦こそ健幸への道。

### 3・新聞等から

◆「スポーツの持続可能性は代表チームの活躍だけでは生まれない。むしろ草の根レベルでの指導力によってもたらされる。良いプログラムと良い指導者がいる環境で教えられた子どもは、自然とスポーツが好きになる」〈朝日：Rugby Life：エディーからあなたへ〉：女子日本代表が五輪で銀メダルを取ってもわが地区の女子選手は増えない。わが地区の全てのカテゴリーが一貫指導のもと、地産地消で持続可能な選手育成をしてほしいものである。

◆「弱い者をなめるな。強い者にひるむな。自分に厳しくしよう」〈朝日・こえ〉：色々な世界に記録破りの若者が登場している。将棋の藤井聡太氏もその一人。彼が5歳から通った子ども将棋教室の教訓である。勝負にたずさわる人間にとっては極めて重要な3原則である。

◆「ここまでも できて来たのは バスケです」〈原町高校時代の教え子佐藤隆一君の川柳〉：もうすぐ還暦を迎える教え子から手紙をもらうようになった。高校時代の懐かしいバスケの話がちりばめられている。彼の人生においてバスケが何らかの力になっていたのか。